

# こへじのう

掲示板

発行所 (社福)千葉県身体障害者福祉事業団  
千葉県千葉リハビリテーションセンター  
発行責任者 高次脳機能障害支援センター  
センター長 大塚 恵美子  
〒266-0005 千葉市緑区菅田町 1-45-2  
Tel 043-291-1831 (代) 内 198



# 27

発行日 2015年12月1日

## 菜の花メッセージ

高齢・障害・求職者雇用支援機構  
障害者職業総合センター  
特別研究員 田谷勝夫

こんにちは。障害者職業総合センターで「高次脳機能障害者の就労支援」に関連する研究に取り組んで22年になります。それ以前は医療リハビリテーション領域で「高次脳機能障害者の障害特性の評価」に関連する仕事に約10年間従事していましたので、計33年間「高次脳機能障害者の支援」に関わっていることになります(私の職業人生の90%以上)。

振り返ってみますと、平成13年に開始された「高次脳機能障害支援モデル事業(千葉県は最初から参加)」と、それに続く「高次脳機能障害支援普及事業(平成18年～)」により、医療リハビリテーション領域における高次脳機能障害者支援は急速に進展しました。

職業リハビリテーション領域における高次脳機能障害者支援サービスは、障害者職業総合センター(幕張)が平成11年に開発した「高次脳機能障害者職場復帰支援プログラム」、広域障害者職業センター(所沢と吉備)が平成14年に導入した「特設コース(職域開発科)」、地域障害者職業センター(全国47都道府県に各1所+5支所の計52所)で平成14年に開始したジョブコーチ支援事業などがあります。最近では、障害者就業・生活支援センター、就労移行支援事業所、就労継続B型事業所等においても、高次脳機能障害者に対する熱心な就労支援(職業準備支援を含む)の取り組みが散見されるようになりました。

このように、高次脳機能障害者に対する支援はこの十数年の間、医療リハビリテーション領域、職業リハビリテーション領域において大きく進展しました。今後、地域の関係機関(行政、医療、福祉、教育、就労等)のより強固な連携により、連続した高次脳機能障害者支援が「当たりマエ」となることを祈念いたします。

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージを頂き掲載しております。

# 全国の動き

## 主催都県は持ち回り体制に変更

平成 27 年度高次脳機能障害支援普及関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議は、11 月 24 日さいたま市保健所の第 1 研修室で開催されました。

会議の冒頭の中島八十一先生の講演では、10 月にあった社会保障審議会障害者部会の示した現状・課題と検討の方向性の中から、高次脳機能障害支援に関わる部分の紹介がありました。症状が経年的に環境の変化などで憎悪するケースへの対応、福祉の現場で高次脳機能障害の症状に応じた支援ができる体制作り、高次脳機能障害を含めたコミュニケーションの理解面に課題のある方達への支援のあり方などについて検討され、特に社会的行動障害のあるケースに取り組む福祉施設に対して障害の特性の理解を促進することの必要性が課題とされたとのことでした。

協議事項である平成 28 年度以降の本会議の方向性については、主催都県は全 10 都県の持ち回りとするが、開催地は交通の利便性を考えて埼玉・千葉・東京・神奈川の一都三県で持ち回るという結論を得ました。これに基づきさっそく来年度千葉県で受けてもらえないかとの打診がありアクセスの良い会場の確保が可能かどうか 11 月末現在、県で検討を進めています。

このほか、8 つのテーマで各々の取り組みや課題について情報交換を行いました。(支援センター大塚)



今年は埼玉で開催 (11/24、さいたま市保健所にて)

# 千葉の動き

## 高次脳機能障害知らない人たちにも

もしかして?『高次脳機能障害』チェックリスト作成チラシ 県内関係各所に配布予定

第二回千葉県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会が 10 月 28 日、千葉リハで開催され、ご自身が高次脳機能障害であることに気づいていない方が、適切な診察や相談窓口に結びつくための「もしかして?『高次脳機能障害』チェックリスト」(チラシ)の活用について、ご意見をいただきました。急性期病院においても、患者様向けや医療従事者向けに置く効果は十分にあることや、相談支援事業所でも高次脳機能障害のアセスメント面で相談が多くあることなど、まず川上から進めることが良いとのことでした。今後は、ご意見を踏まえ、効果的なチラシ配付や活用方法を県と支援拠点機関で検討し、近々に関係する医療機関、保健所、相談窓口等に配付する予定です。

県をはじめとし、支援拠点機関としましては、高次脳機能障害の方に一層の効果的支援に結びつくことを願っているところです。(支援センター齋藤)



ネットワーク連絡協議会の様子 (10/28 千葉リハにて)



もしかして?『高次脳機能障害』チェックリスト

<http://www.chiba-reha.jp/koujinou-center/download/index>



支援センター『家族のつどい』では生活に関する多様なテーマに沿って講師を招き、生活に役立つ情報提供、講義に対する質疑応答、意見交換をしています。今年度は『地域で自立して生活すること part 2』を年間テーマに掲げて活動しています。

**【対象】** 支援センター利用者家族、家族会の方々  
**【目的】** 障害の知識や福祉制度を学び、ご本人にとって一番身近な「応援団」になることを目的としています。ご自身の気持ちを語り、他のかたの体験談を聞いて、不安やストレスを軽減し、エネルギーをチャージすることを目指しています。  
**【開催日】** 奇数月第四水曜日 10:00-12:00(原則)

**活動内容紹介**

9月の活動では、海匠ネットワーク所長吉野智先生をお招きし、東日本大震災での初期から、今日に至るまでのリアルな支援をお話いただきました。吉野先生は、「日ごろから地域でつながること、自分の状況を知っている人を作っておく事が大切」と述べられていました。また、支援センターからの情報提供として、NPO 法人日本脳外傷友の会が発行している『高次脳機能障害もしものときリーフレット』(資料1)『あんしんカード』(資料2)をご紹介します。講義の後はグループに分かれて意見交換し、その中で『災害用伝言ダイヤル(171)』について、「知識として知っているだけでは駄目であり、活用するには事前に練習が必要。」(毎月1日と15日に練習可能です)といった意見が挙がりました。また、アンケートからは「報道では知り得なかった現場の問題を具体的に知ることができ、とてもよかった。」などの感想が聞かれました。

今年度は1月、3月とあと2回開催予定です。ご参加をお待ちしております。

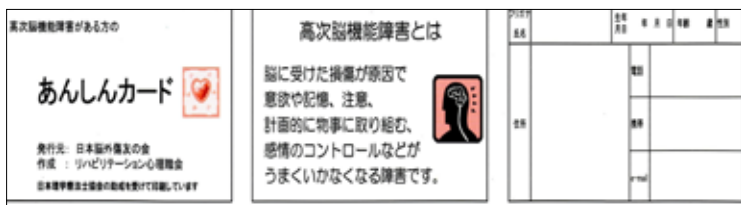
平成 27 年度 5 月～ 1 月のテーマ

|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 5月  | パーソナルノートのいろいろ                       |
| 7月  | 気づいていますか？ 普段のサポート<br>～高次脳機能障害の日常生活～ |
| 9月  | 東日本大震災における旭市での支援と仮設住宅支援             |
| 11月 | 財産管理(成年後見と家族信託)                     |
| 1月  | 生活版ジョブコーチについて(予定)                   |



〈参考資料〉

災害用伝言ダイヤル(171)の URL  
<http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>



\* 資料 2 あんしんカード



\* 資料 1 高次脳機能障害もしものときリーフレット

**支援センター見学報告****他県の支援拠点機関との交流の取り組み**

千葉リハセンターを見学して

神奈川県リハビリテーション病院リハビリ科医師 青木重陽

去る 10 月 2 日に、神奈川県リハビリテーション(以下リハ)センターの 9 名(リハ科医師 1 名、ソーシャルワーカー 2 名、OT1 名、臨床心理士 4 名、職業リハ指導員 1 名)が、千葉リハセンターの見学をさせていただきました。各人が様々な刺激を受け、それぞれ帰途中に話は尽きなかったのですが、ここでは総合リハについてふれたいと思います。

総合リハとは、教科書にもありますように、医学的リハ、社会リハ、職業リハ、教育リハが組織的・総合的に行うリハのことです。高次脳機能障害ではその多様性(時間的な変化も含めて)から、包括的全人的な対応が必要であり、従って総合リハが非常に有効となります。ただ、これはそんなに簡単ではない。異なる背景から発展した各部門はその哲学や価値観も異なるため、お互いの連携には苦勞をるところです。

千葉リハセンターの取り組みは、まさに総合リハの実践でした。学会等でお話は聞いていたつもりでしたが、見学させていただくとチームとして機能しているところがよくわかります。実際に動いている連携と、そのための様々な工夫を見学できたことは大変意義深いところでした。

突然押しかけさせていただきましたにも関わらず、大塚恵美子高次脳機能障害センター長をはじめたくさんの皆様に、本当に長時間御丁寧に対応いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

**国立特別支援教育総合研究所主催の見学研修**

全国の特別支援学校の教員が参加



支援センターの説明を受ける参加者(10月23日)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所で実施している特別支援教育専門研修(全国の特別支援学校等の教員を対象として2カ月間に渡って行われる)の一環で、千葉県千葉リハビリテーションセンターを訪問しました。主な研修内容は、高次脳機能障害支援センターの大塚恵美子センター長のご講義と施設見学でした。千葉県千葉リハビリテーションセンターと千葉県立袖ヶ浦特別支援学校とが連携して行っている高次脳機能障害のある子供の入院治療中の教育や前籍校への復学支援の取組から、特別支援学校に求められる役割について多くの示唆が得られました。このような貴重な機会をいただけたことに心より感謝申し上げます。

(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
教育研修・事業部 研究員 森山 貴史)

障害を持って働く



ちばい  
ごんわが

支えて支えられて

講演後、会場からの質疑応答に答える (9/28、京葉銀行文化プラザ 6F 檯の間で)  
(フニーエムシーエ渡邊氏・ぐるなびサポートアソシエイト工藤氏・障害者職業総合センター田谷氏)

第 11 回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会を 9 月 28 日、京葉銀行文化プラザにて開催しました。『高次脳機能障害でも働けるの?』をテーマにして研究者、雇用側、当事者家族からの立場で講演して頂きました。休日明けの講演会にも関わらず、初参加のかたは全体の八割を占めていました。(参加人数 188 名、医療 61%、就労支援 13%、福祉 8%、その他 18%)

アンケートでは「当事者家族の柴本さんのお話が興味深く聞けた」「ご本人の話も聞きたかった」「企業、家族から両方を聞けてよかった」のほかに、もっとゆっくり聞きたかったとの声もありました。次回以降、参加者側の意見も取り入れながら、皆様のお役に立つ懇話会を開催いたします。ご参加ありがとうございました。



家族の関わりかた、サポートを話す柴本礼氏


本懇話会でお話し頂いた企業では、高次脳機能障害の方を採用する為に専従の支援者を配置し、関係機関（医療、家族、支援者、就職先など）の間で連携を取り、職場への定着を図っていました。そして、高次脳機能障害の方の、障害の状態は人それぞれ異なります。その為、個別の支援が必要となる事が理解できました。

懇話会に参加して

私自身もソーシャルワーカーになる迄、高次脳機能障害がどのような障害なのか知りませんでした。世間一般の方々に高次脳機能障害について正しく知ってもらう事が、就労支援の第一歩だと感じました。今後も本懇話会のような勉強会に多くの方に参加して頂き、一人でも多くの方に高次脳機能障害を知ってもらう事が大切だと思います。(亀田総合病院総合相談室 齋東清道)

## 第二回

# 手のひらの会



ハイリハちば

ちば高次脳  
機能障害者と  
家族の会

東葛葉の花

南房総家族会



おそろいのシャツをまとい連弾をする当事者とご家族

千葉県内の4つの高次脳機能障害の家族会で構成された、第二回『手のひらの会』が千葉リハ大ホールで10月4日開催されました。

午前中は支援者向けの研修『高次脳機能障害とそのサポート』、午後から支援者、当事者、当事者家族と交流を兼ねた全体会を行いました。参加者70名（支援者25、当事者・家族45）。研修会の感想や、全大会の報告を参加されたかたの寄稿によって紹介します。

## 今年も楽しく過ごせた全体会

### 研修会に参加して

「高次脳機能障害とそのサポート」

研修は大塚支援センター長から高次脳機能障害支援センター開設までの経過と支援内容、障害特性と支援方法についてお話を伺いました。とくに支援方法は事例を通して具体的に学ぶことができました。当事者が困っていることやその原因を把握し、カバー法を導入するお話はたいへん参考になりました。また、最後には参加者間の交流機会もあり、充実した研修でした。ありがとうございました。

(VAIC-CCI 佐々部憲子)

「第2回手のひらの会」は 昨年に引き続きゲームとマジックで楽しみました。○×クイズでは前回は南房会の当事者に全問正解が1名いましたが、今回は0で残念でした。「問題！ジャンケンで『最初はゲー』と言ったのは志村けんである」○に「うそー？ もっと前からあったよねー」周辺から声が聞こえます。まあ、はずればそうも言いたくなります。当たった方は「やったー」とか当たった方もそれが本当か分かりませんが、スキップをしながら紙をもらいに行きます。

後半は参加の家族会の紹介から、ピアノの連弾でしたがこれが聞かせてくれました。秋をテーマの題名当てクイズでしたが、曲は知ってても題名が出て来ないのはよくあります。「あれ？なんて言ったっけ ほらあれだよ？」「考えてみれば最近聞いてないからねー」とか、日頃の忙しさにじっくり音楽を聞く暇がないのかも知れませんね。そして、余村さんのギター演奏でした。

さて、マジックですが、今回は愛人を連れての領家さん。口が8割手品が2割。自分が答えを言う前に参加者が発言して大爆笑。「これは去年もやったから知ってる人は黙ってるように」「おいおい！ほとんどが去年も参加してるよ」なんて声もありまして、爆笑のうちに終了でした。皆さんお疲れさまでした 第3回手のひらの会でまたお会いしましょう。

(南房総家族会 石黒弘明)



○×クイズで会場を移動した参加者たち

# 日本脳外傷友の会 設立 15 周年記念全国大会



全国の家族会代表者が一堂に集合。来年開催する高知の家族会代表が挨拶 (11/21 きゅりあん大ホールにて)



初代厚生労働大臣 坂口力氏

日本脳外傷友の会全国大会が 11 月 21 日、品川区立総合区民館きゅりあん大ホールにて開催されました。1,000 人が入るといふ大ホールでしたが、開場前から沢山の方々が全国から集まり、15 周年記念にふさわしい華やかな会となりました。

初代厚生労働大臣を務めた坂口力氏の挨拶を始め、「2015 年当事者活動奨励賞」の表彰、上田敏先生による「高次脳機能障害者のリハビリテーションと当事者・家族の役割」と題した講演、「こんな支援があれば僕らは働ける」をテーマにした、橋本圭二先生と当事者 2 人

## 失敗するチャンスをください

の対談、また、シンポジウムでは、「高次脳機能障害支援の現状とどうなる今後」をテーマに、行政、医療、支援コーディネーター、家族の立場でディスカッションが行われるなど、盛り沢山な内容でした。

上田先生の講演では、リハビリテーションとは「機能回復訓練」でなく、「権利・名誉・尊厳の回復」「全人間的復権」である。プラスの側面を伸ばすことの重要性についてのお話がありました。また、橋本先生と当事者の 2 人の話の中で、働く中でこれから何を求めるか？との質問に、最初から「出来ない」では無く、やって見なければ分からない、「失敗するチャンスを下さい」との言葉がとても印象に残りました。当事者、家族、支援者、行政と様々な立場から、率直な意見が出され、今後、どうすればもっと生活しやすくなるのか、前向きに討議する場となったのではないかと思います。会の最後には全国の家族会の代表者の皆様が集壇し、現在の課題と向き合いながら、今後に向かって頑張っていく決意を表明して会が終了となりました。(支援センター 田中)

## 記念大会にふさわしい華やかな会

# うれしい! おもしろい! たのしい!

## 『癒しの森で身も心もリフレッシュ!』

「ハイリハちば定例会」

10/18(日)千葉県立青葉の森公園にて

ハイリハちば定例会は、講師に臨床心理士の赤城建夫先生をお呼びし、毎年恒例の『癒しの森で身も心もリフレッシュ!』を実施しました。秋晴れの芝生広場で、『大縄くぐり』や『ロープ歩き』、『宝探し』、『紙ヒコウキ飛ばし競争』などのプログラムを通して、いつもよりも少しだけ自分の体に意識を向けながら動かしてみるという体験をしました。最後は、各々が自分の‘希望の星’を見つめるポーズを取りながら集合写真撮影(写真1)をしたり、円陣(写真2)を組んだり、いきいきとした笑顔あふれるひとときでした。(支援センター遠藤)

【写真1】



「希望の星を見つめて～!」ポーズを取りながら写真撮影

【写真2】



最後の挨拶は恒例の円陣を組み挨拶「ありがとうございました!」

なるほど!  
みんなでするから  
楽しい!



## information

## 編集後記

高次脳機能障害を理解する 家族として 精神科医として

2016 1月24日(日)

千葉県文化センターアートホール  
13:00-15:00 (12:30 会場) 入場無料

講師 ● 納谷 敦夫 氏  
(なや もつお) ●  
なやクリニック 高次脳機能外来 医師

お申込み 問い合わせ

お問い合わせ先: 千葉県立青葉の森公園 支援センター  
〒266-0205 千葉県千葉市緑区倉田1丁目45番2  
tel: 043-291-1831 (月19時) fax: 043-291-3847 http://www.chiba-reha.jp/

巻頭言で田谷先生に触れていただいたようにモデル事業から支援普及事業まで、当センターは千葉県の拠点機関として関わり続けて15年目を迎えています。日本脳外傷友の会の設立15周年記念大会に参加し、診断基準もなかったところから始まり、家族会も支援拠点機関も全国に広がったことの中に時間の重みを感じました。それでもまだこの障害自体を知らない当事者家族が県内にもいらっしゃるでしょう。今回発行した「もしかして?『高次脳機能障害』チェックリスト」が、そんな方たちや周りの方の目に止まって支援に繋がりますように、そんな願いを込めてこの号を送り出したいと思えます。(O)

今秋、赤い車のCMを良く見かける。これは景気がいいことを示す物差しだろうか。バブル期に「赤」が好まれたようだが、街を走行する車の色は、『白』『黒』『シルバー』が多い。実は五年前、新車を購入する際、赤い車を購入した。販売店から「街に赤い車が走るとなると景気がいい証拠」と聞いた話が忘れられなかった。赤は飽きる。白や黒、シルバーは飽きがなく無難。だから、長く乗ってられる。という理由らしいが、私の場合、昔から購入するなら車は赤と決めていた。バブル期に青春を送り、その余波が今もどこかに残っているかも、と思う。だが、今年は車だけではなく、エアコンなども発売され、口紅も赤を求める女性が多いという。さて、毎年恒例となったチラシ作り。来年の講演会や啓発チラシ(もしかして?高次脳)に赤を意識して取り入れた。景気が良くなるようにはではなく、『多くの人に触れていただきたい』支援者の熱意も込められている。(Y)